

## 犯罪集団とその御用学者たち

平和統一 NEWS 59 号 (2013/8月号)

渡辺 久義

もし私が脅迫によって民を従わせる暴君あるいは僭主であるとして、最も賢明なやり方はどういうものだろうか？ それは脅迫を脅迫と思わせないこと、これがごく自然な社会のあり方だと思わせることである。旧ソ連や中国や北朝鮮は、人民がびくびくしながら、うっかり政府の批判をしないように生活しているのだから、これは“躑”をうまくやっている暴君の私から見れば、愚かで幼稚なものである。

ある高次元人の地球人へのメッセージの中で「イルミナティによってコントロールされている主流科学」とさりげなく言われているのを見て、私はその「解説」に、「**科学者はこれを読んで、少しはドキリとしてもらいたいものだ**」と書いた（創造デザイン学会 5/23「銀河連盟：その全貌」）。高次元宇宙人たちが今いっせいに地球人に警告を送って気付かせようとしているのは、彼ら（イルミナティ、「大陰謀団」、NWO=New World Order）の、この巧妙な、背後からの支配についてである。我々はこれを空気の存在のように気付かなかった。しかし今やと内外の警告家によって知るようになった。

彼らはメディア、金融、教育、政治、科学、宗教などすべてを支配していると言われるが、特に問題は科学の世界である。科学者（の一部）がいかにか——それと知ってか知らずか——彼ら犯罪集団の御用学者になり下がっているか、その顕著な例を“ケムトレイル”の問題に見ることができる。

詳しくは、創造デザイン学会 7/2「ケムトレイル：気象“科学者”の傲慢と嘘」を見られたいが、デーブ・ウィギントンというこの問題の代表的警告家が、招かれて数名の科学者とともに、あるラジオ番組に出た。彼以外は、司会者を含め、ケムトレイルなど存在しないという立場であった。一人の電話質問者がNASAの科学者に「私たちの上空に航空機から網の目をなすほどに撒かれているものは何ですか？」と訊ねた。するとその科学者は「その航跡には何の化学物質も含まれていませんよ。何も散布されてはいません」と何の躊躇もなく答えた。ウィギントンはこれには驚いたと言っている。「ジェット機が明瞭に何かを散布している無数のビデオがあり、噴射のオン・オフのついた散布ノズルさえ見えるものがあるというのに…。」

また、別の科学者と彼との慌ただしいやり取りの中で、その科学者は言った、「気象操作情報やジェット散布のビデオは、いかにももっともらしく見えますが、これは本当のことではありません。これは一握りの人たちが一般大衆を誑かそうとしているのです。…私たちは大気のテストをしているのであって、そのような物質は検出されていません。」（「そのような物質」とは、明瞭に検出されている有毒物質、一酸化アルミ、バリウム、ストロンチウムなどのこと。）ウィギントンが啞然として、何か言おうとすると司会者は彼を遮り、それきりだった。相手の科学者はこのとき明らかにくくっと笑った。あとからわかったことだが、大勢の電話質問者が機会を待ちかねていたにもかかわらず、これも最初の一人で打ち切られた。

これは立場や見方の違いといったものではない。明らかに“犯罪集団”の側に立つ犯罪である。多分彼らはそう言うように脅迫されていた、あるいは脅迫を感じていたであろう。しかしだからと言って彼らが許されるものではない。彼らは職と命の安泰のために、専門科学者としての責任を放棄したわけであって、一生涯その負い目は消えないだろう。彼らは団結してこの世の悪の根源に立ち向かう勇氣と才覚をもたず、今その機運が高まっているというのに、時代や世界がどこを向いているのか知らないでいる。“権力エリート”もそうやたらに暗殺はできないはずである。彼らに次のような、宇宙からの忠告や情勢分析を見せても、嘲笑して読もうともしないだろう。これも自分で判断したからではない、そんなものを信じないようにコントロールされているからにすぎない。

あなた方の現実は変化しつつあります！ 黒い陰謀団はパニック状態にあり、更に悪化する彼らのジレンマを解決しようとして、ますます自棄的な方法を探し求めています。私たちが何度も指摘してきたように、彼らは旧来の不正な方法を用いて、このひどくなる一方の状況から抜け出すことはできません。「光」はこの領域（地球）を否定なく奪回し、それを彼女のやさしい方向へと安全に転換させる過程にあります。（創造デザイン学会「シェルダン・ナイドル アップデート、July 9, 2013」）

これは科学の世界に限らない。メディアの世界もまた「陰謀団」によって完全に雁字搦めになっている。ニュース報道が一々検閲されるというより、長年の“騷”によって、報道のタブーが身につけているのであろう。その結果、報道を許されるのは「彼ら」の安泰にとって無害なごく一部のニュースであり、視聴者はこれが起こっているすべてだと思っている。特に現在は、重要なニュースほど、戦闘的にブロックされていると考えてよい。各新聞社が新聞離れで苦しんでいるというのに、読者が奪い合って読むに違いない、重大なニュースは現「僭主」体制維持のためにすべてカットというのは、新聞社としても歯がゆい話であろう。